

平成24年度事業報告書

社会福祉法人 桔梗会

- ◇ 特別養護老人ホームききょうの里
- ◇ ききょうの里短期入所生活介護事業所
- ◇ ききょうデイサービスセンター
- ◇ ききょうの里居宅介護支援事業所
- ◇ 沼田市在宅介護支援センターききょう
- ◇ ききょうデイサービスセンター岡谷
- ◇ ききょうヘルパーステーション

1, 職員の研修

- ・ 職員資質の向上を図るため、各種研修会に職員を参加させると共に報告会を行い、知識や技術の共有を図ることができた。(各部署の別添資料)
- ・ 利根沼田保健福祉事務所による感染症対策研修を全職員対象で行い、感染対策に努めた。
- ・ 各種資格取得を促し、次のとおり有資格者を出すことができた。

介護福祉士	1人
介護支援専門員	1人
- ・ 社会福祉士及び社会福祉主事の資格取得費用等の一部助成を行った。
- ・ 施設内でパソコン研修(初級・中級)を行い、知識や技術の向上を図った。
- ・ 腰痛予防教室を開催し、介護職員の腰痛予防対策を行った。

2, 職員の福利厚生

- ・ 職員旅行を実施し、職員間の交流を促進した。
- ・ 永年勤続職員に対して旅行券を贈呈し、職員の定着化を促進した。
- ・ 女性職員1名が育児短時間勤務を取得し、「次世代育成支援行動計画」を推進することができた。
- ・ 職員の健康を管理するため、伊勢崎佐波医師会附属成人病検診センターに委託して健康診断を実施した。なお、夜勤のある職員に対しては2回の健康診断を実施した。

3, 施設・設備の整備改善

- ・ 施設周辺の整理・整頓と花の植栽等により環境美化を進めた。
- ・ 介護用器具等を更新又は追加購入した。(特殊浴槽1台、介護用ベッド10台、車椅子3台、歩行器1台、ベッドサイドテーブル5台等)

- ・車両の更新を行った。(トラック車両1台)
- ・厨房用器具類の整備、修繕により衛生面の確保に努めたほか、什器類の更新により食事環境を改善した。(食器消毒保管庫、食器の更新等)
- ・タイヤ保管庫を設置し、タイヤ交換作業の合理化を図った。
- ・利用者様のリハビリり又は娯楽用に外部通路を整備した。
- ・多目的室の空調機を更新及び追加設置し、職員会議や利用者様を対象とした行事等が快適に行えるよう整備した。
- ・ききょうデイサービスセンターの配車管理を合理的に行えるよう、コピーボードを更新した。

4, 災害事故防止対策

- ・広域消防本部の協力を得て消防訓練を実施した。

1回目	・ききょうの里	9月26日	ききょうデイ岡谷	9月25日
2回目	・ききょうの里	3月28日	ききょうデイ岡谷	3月29日

5, 地域交流・広報及びボランティアの育成と受け入れ等

- ・地元の「横塚町夏祭り」に参加し、施設利用者様と地域の人々との交流を促進した。
- ・広報誌「ききょう便り」に各事業所の紹介記事を増やし、紙面の充実を図った。
- ・理事・評議員の希望者を対象に陶芸教室を行っているが、ききょうデイサービスセンター利用者様に対して陶芸の手伝いをして頂いた。
- ・沼田市の一斉清掃に合わせて、横塚町桃畑地区周辺のゴミ拾いを行った。
- ・震災被災地福祉施設へ介護職員3名(3ヶ月間)を派遣した。

6, 処遇・活動実績(部署別)

(1) 総務課

ア、給食係

- ・『季節感のある食材を使用し、食べることが楽しみとなる食事の提供』を目標とし、旬な食材を使用し季節を感じてもらえる食事提供に取り組んできた。
- ・調理器具の活用や調理手順の見直しを行い、効率よく調理作業を進めることができ、複雑化している個別対応に十分な時間を当てることができるようになった。
- ・ペースト食をゼリー状に固めたゼリー食の試作を行い、平成25年度の導入に向けて準備を行ってきた。魚の形に型取った魚料理は、見た目の良さからペースト食の方に喜んでもらうことができた。今後はメニューを増やしていくことが課題である。
- ・衛生管理マニュアルに沿って安全な食事提供を行ってきたが、髪の毛の混入が発生してしまった。その後、厨房内に入る際にカーペット用クリーナーで洋服に付いている髪の毛やゴミを取るよう改善してから、髪の毛の混入はゼロに

なった。引き続き食中毒や異物混入を防止していきたい。

- ・食材の価格調査を行い、調味料や缶詰、乾物などのメーカー並びに仕入先の変更を行い、よりよい食材を安価で仕入れる事ができた。
- ・昨年12月より糖尿病食を6名の利用者様に提供し、療養食加算の算定を開始することができた。

(2) 施設福祉課（ききょうの里・ききょうの里短期入所生活介護事業所）

従来型	目標稼働率93%	実績	94.9%
ユニット型	目標稼働率96%	実績	95.6%
ショートステイ	目標稼働率75%	実績	75.6%

◎共通目標について

- ・専門職として資質向上を目指し、外部研修にも積極的に参加すると共に参加後は報告の場を設けて職員の知識の共有に努めた。また、講師を呼び内部研修も行い知識の向上に繋がった。

※職員の研修実績は別表1を参照

- ・短期入所については、目標稼働率75%に対して、実績75.6%と目標を達成できた。施設内で感染症が発生した際は、ショート利用者様のご家族にも状況報告をし、利用の制限や自粛をお願いした。それに伴い、稼働率は下がったが蔓延防止やご家族の信頼関係の向上に繋がった。
- ・各種委員会活動に関しては、これまで明確な活動を行っていなかったが、体制を見直し、毎月の全体会議で、各委員会から実施状況や全体で周知すべき情報の報告を行ったことで、職員の意識が向上し、利用者様の処遇改善にも繋がった。
- ・平成24年度の介護報酬の改定に伴い加算項目の検討を行い、職員体制を整えて新たに「夜勤職員配置加算I（22単位/日）」、「認知症ケア専門加算I（3単位/日）」、「口腔機能維持管理体制加算（30単位/月）」を算定できるようになった。

ア、相談係

「利用者様、ご家族様の思いを受け、充実した生活を送っていただく為に最大の理解者になる」を目標にして取り組んできた。

- ・利用者様に自立した日常生活を送っていただけるように、他職種職員の参画による6ヶ月に一度のケアプランの更新に加え、利用者様の退院時や状態変化の際には即時にケアプランの見直しを行ってきたが、9月の実地指導の指摘を受け、アセスメント様式を見直し、より個々の利用者様の状態把握と問題点を抽出できるように改善を行い、ケアプランに反映できるようになった。
- ・空床期間を短縮するために、入所判定会議を毎月一回、入所判定委員にも参加頂いて開催した。空床が発生した際には早期に適正な入所者選考を行い、入所するまで平均日数8日と早い入所が実現できた。（特別な場合を除く）

- ・入所時にはご家族の相談に対して助言を行う事ができた。また、利用者様の体調や入院等の変化があった際には心身等の状況の説明をし、ご家族の意向も踏まえて各関係機関との調整を行う事が出来た。

イ、施設介護係

①介護職(従来型)

「専門職としての資質を磨き、入所者様が安心して快適に過ごせるような介護に努める。」を目標にして取り組んできた。

- ・研修会に積極的に参加して、参加後は全体会議で報告を行い、学んだ事を共有することで職員全体の知識向上に繋がったが、それを業務に十分取り入れるところまではいかなかった。
- ・介護事故防止・対応委員会を中心に会議を毎月開催し、そこで話し合われた事を全体会議で報告し事故の再発防止に努めた。介護事故に対する意識も向上し、気付きも増えたためインシデントレポートが多く提出されるようになった。
※インシデントレポート統計は別表3を参照

- ・リハビリを計画的に実施していくことを目標とし、日常生活動作の機能維持に関する援助の実施に加え、業務内で時間を見つけて平行棒や立ち上がり訓練などの実施ができたが、計画的に時間を設けて実施するまでには至らなかった。レクリエーションに関しては、レクリエーション委員会を設置し、昨年度まで実施できずにいた個別レクリエーションも行い、作品展に多く出展することができた。

②介護職(ユニット型)

「ご家庭のような暮らしを提供できるようにするため、24時間シートを使い、一人ひとりの生活時間(リズム)を把握する」を目標にして取り組んできた。

□大地グループ

- ・過去の生活歴や日々の様子を踏まえて、食事の盛りつけや洗濯、花や野菜のお世話などご入居者様個々の役割を持って生活して頂いた。
- ・外部研修に参加して得た知識を、職員全体で相談や検討を重ねた結果、ユニットケアに関する理解が深まり、業務及び個別処遇の改善に繋がった。

□大空グループ

- ・一人ひとりの食習慣を知り、ご本人にとっておいしく楽しく食べてもらえるよう、常備食や嗜好品などを用意しておくことで、それぞれの好みや状況に合わせた対応を行った。
- ・生活に必要な物や嗜好品をご本人と一緒に買い物に行くことができた。気に入った物を購入することでより満足していただき、社会との関わりや気分転換も図ることができた。
- ・入居者様の排泄パターンを把握し、個々に合わせた排泄介助を行うことで、大多数の入居者様が紙おむつや紙パンツの使用からパンツへ移行することができた。

③看護職

「利用者様が快適で安定した日常生活が送れるよう、日々の健康管理に努める」を目標にして取り組んできた。

- ・利用者様の健康管理を第一に、日頃の観察とスタッフ間の連携により、早期発見、早期受診の対応ができた。感染症に関しては、嘔吐物の対処法や感染対策の内部研修を行い、衛生管理を徹底してきたが、12月にノロウイルスの感染者がでてしまった。しかし、感染対策を迅速に行うことで最小限に食い止めることができた。

□その他として

- ・地元小中学校との連携で、たくさんのボランティアや体験学習の受入ができた。また、例年通り専門学校や大学、短大から介護福祉士養成のための実習を多く受け入れた。

(3) 在宅福祉課

ア、通所介護係（ききょうデイサービスセンター）

目標稼働率80%	実績72.3%
----------	---------

1) サービス提供実績

今年度のサービス提供実績は、別紙「平成24年度 ききょうデイサービスセンター利用状況」のとおりで、延べ利用者数7,843人(前年度7,591人)3.3%増、稼働率は72.3%(前年度69.7%)と2.6ポイント増となっている。利用実人数67人中、21.0%が他事業所の介護支援専門員の紹介による利用者様であり、昨年度の28.4%とほぼ同推移である。このことから、他事業所から一定の評価を得ているデイサービス事業所であると言える。

2) 平成24年度事業目標への対応

①楽しく、笑顔で利用していただくための取り組みについて

絵手紙教室・手まり教室を本年度は職員により継続できた。今まで参加されていなかった利用者様も数人参加するようになり、参加人数が増し教室もより活気のある雰囲気となっている。

個別レクリエーション実施表

	作品名	参加者		作品名	参加者
4月	入れ子式小物入れ	13名	9月	トトロ貼り絵(共同作品)	32名
5月	犬のぬいぐるみ	13名	10月	亀のぬいぐるみ	7名
6月	絵手紙(共同作品)	30名	12月	和紙で作る蛇	10名
7月	七夕飾り	12名	H24.1	書き初め	全員参加
8月	鮭のインテリア	8名	H24.2	手まり教室	6名

- ・行事での取り組みについては、昨年度より実施していた、新緑ドライブを兼ねた外食会を継続。参加、不参加のアンケートを取り「かっぱ寿司」に出かけた。食事の雰囲気が変わるためか「とても美味しい」と喜ばれていた。普段は、

「お粥やミキサー食」を食べている利用者様も時間を掛けて楽しまれていた。
 ・陶芸教室では、女性利用者の方も参加し共同で「マグカップ」を作り作品展に出品する事ができ、地域の方にも見ていただき好評で、次の作品づくりの意欲を引き出す事ができた。定期的で開催している手作りおやつでは昔懐かしい物から新しい感覚のおやつまで作り、見て楽しみ美味しさを味わって頂いた。

また外出行事として、迦葉山への紅葉ドライブやぶどう狩りを実施し、季節感を満喫していただいた。

・リハビリテーションの取り組みについては、利用者様一人ひとりに合った個別機能訓練計画書の作成期間ごとに見直しを行って実施し、成果として体調の維持向上やケガの防止にも効果が出ている。また一日の終わりに利用者様と職員が一緒になって「ズンドコ節」体操の時間を作り、挙手が上手くできない利用者様も車イスに座ったまま上手に動かすようになり輪の中に入ることができ、心が一つになる唯一の時間となった。同じ体操を利用者様のなじみの歌で繰り返すことにより、リハビリの成果に繋がっている。

2) 安心できる環境の中、その人にあった支援をしていくために

①通所介護計画の作成・見直しを行い、利用者様の状態やニーズを的確に把握し、それを踏まえた通所介護計画を作成した。また、利用者様一人ひとりをよく知り、ご家族との関わりを大切にしながら意欲を引き出せるよう支援できた。

②大きな介護事故を防ぐように本年度はどんなに細かなミスでも報告するように指導した。これにより介護事故やヒヤリハットは、介護に関するインシデントレポート 15 件、車輛をこすったりしたなどの報告 7 件、介護事故(入れ歯を落とし割ってしまった)が 1 件、利用者様及びご家族からの苦情が 1 件あった。

③職員の資質向上のための研修として、8人の職員が13回(延べ21日間)の外部研修に参加した。参加した職員には、研修内容を部署内で発表してもらう事で他の職員の知識向上にも繋がった。デイサービスは、前年度に比べ養成学校の実習生が長期日数で来るようになったが、研修で得た知識を職員間で共有する事で、職員全体の実習生に対する指導力が向上したのではないかと思われる。外部研修の他に内部研修も行っており、職員のスキルアップに繋がっている。

イ、相談係(ききょうの里居宅介護支援事業所)

目標担当件数	1,080件	実績	877件	達成率	81.2%
予防	300件	実績	271件	達成率	90.3%
計	1,380件	実績	1,148件	達成率	83.2%

1) 相談実績:

平成24年度年間延べ請求件数(介護予防含む)は1148件(昨年1208件)と60件減少した。介護予防給付管理件数(271件)と介護給付管理件数(877件)との構成比は要介護者の支援費が0.2ポイント増加(76.2%→76.4%)にとどま

り、1件あたりの単価もほぼ変化はみられていない。要介護のうち、軽度者(要介護1～2)と重度者(要介護3～5)の構成割合が0.5ポイント重度の方へシフト(23.91%→24.46%)した。また、各種加算についても、制度改正による加算単位の減少もあり、1万円強の減収となった。

具体的には、介護予防支援費(@4,120)が18件減少し、介護支援費(@13,000～16,000)の数が46件減少、給付管理報酬収入は概算総額で67万円強の減収となった。

2) 年度計画への対応：

前年度に引き続き、特定事業所加算(Ⅱ)を保持し、要介護給付管理1件につき3,000円の加算を維持できた。

この一年間は世代交代のための序章の年度となった。居宅管理者が在宅福祉課長兼務となり、また、公的介護保険制度創世期から相談員として相談係を牽引してきた職員が定年退職を迎え、次世代育成及び確実な継承のため、若干給付管理件数をセーブせざるを得なかった。

たった3名の部署であるが、介護支援専門員の活動は、各利用者様に対する直接窓口であるだけでなく、法人内各事業部門に対し「ケアの質確保」のための窓口としての役割も併せ持つ。またその業務には、知識や年齢の問題ではなく、人生経験そのものも、バックボーンとして重要な要素となる。単純作業と異なるので個人の持つ要素が大きい。

また、時代を超えて存在する貧困や病気、介護といった社会生活上のさまざまな困難及びこの「ご時世」特有の問題について、隣接部署である在宅介護支援センターの活動が地域ケアの中心である民生委員さんや市当局との連携を深め、対応困難な(つまりは手のかかる)ケースに立ち向かう力を磨けば磨くほどに、結果として当部署のケアマネも、フォローする形で介護保険制度の枠組みの中ではあるが相談援助のネットワークに参加して対応した。その中で利用者様・ご家族に関する2件の傷害事件(刑事裁判事件)にも遭遇したが、重いテーマを抱えつつ他人の人生に相渉る覚悟と専門性があらためて問われていることを気付かされる経験となった。

しかし一方で、事業所の継続性の観点からは給付管理件数の減少は即減収につながるなので、重度要介護者への援助のみならず、軽度要介護者の給付管理を効率的に実施していく必要性についてもあらためて反省の強いられる年度となった。

ウ、沼田市在宅介護支援センターききょう

目標実態把握件数900件	実績	477件	達成率53.0%
--------------	----	------	----------

□総合相談事業

1) 相談実績

平成24年度相談件数は、延人員1,014件・実人員716件(昨年延人員1,055件、実人員767件)前年比約96%の稼働率であった。また、内訳の行政サー

ビスの適用区分では、配食サービス 27 件(昨年 39 件)、軽度生活援助 11 件(昨年 6 件)、生きがいデイ 13 件(昨年 19 件)、生活管理指導短期宿泊 2 件(昨年 2 件)、緊急通報装置 5 件(昨年 2 件)、その他(タクシー券)11 件(昨年 9 件)、と各区分において増減はあるもののほぼ同等数の実績であった。昨年より重視している個別ニーズの引き出し及び、要望への対応が継続できていると思われる。

2) 困難事例への対応実績

平成 24 年度困難事例対応(行政へ報告分)18 件(昨年 14 件)で、対応件数増となった。地域包括支援センター・高齢福祉係・警察・民生委員・病院を初め、多くの関係各機関や対象者周辺家族等と連携し綿密な情報交換と素早い訪問、夜間・休日を問わず 24 時間対応を行い、多方面との信頼関係を築きながら実施している。昨年話題となった孤独死や大きな事件事故に発展しそうな案件を未然に防ぎ、的確かつ速やかで円滑な他機関への送致を心がけている。最近の対応事例の傾向として、独居高齢者よりむしろ、老夫婦や親子同居世帯等の一般家庭に困難ケースが増えている実態がある。内容として介護拒否や放置、金銭トラブルや貧困、家族崩壊や精神的破綻などが複雑に絡み、家族関係そのものが困難化し、時間と粘り強い対応が求められている。支援センターとして何処まで介入して良いのか疑問が残る処ではあるが、他に対応する機関が無いのも事実な為、対応せざるを得ないというのが現状である。

3) 自己研鑽と次世代人材育成実績

研修参加は、全国及び県在介センター総会など法人公認研修に 2 回。社会福祉士会・介護支援専門員会など所属会研修に 13 回参加した。また、社会福祉士実習生を 2 名受け入れ担当し、2 研修延べ 24 日間の実習に対応した。

4) 基本チェックリスト未回収分回収実績

一昨年より新規に始まった事業であるが、一昨年は中断となり 24 年度が初めての実績となった。名簿上 150 名の依頼であったが、その内 80 歳以上の高齢者限定とし、61 名分の回収及び実態調査をおこなった。その中から困難事例 2 件対応し解決を行った。

□通所介護予防事業

1) かくしゃく教室・フォローアップ教室実績

平成 24 年度かくしゃく教室実施延べ人数は、374 名(昨年 338 名)前年比約 110.7 %。フォローアップ教室は延べ 181 名(昨年 161 名)前年比約 112.4 %であった。継続率はかくしゃく教室で 93 %フォローアップ教室は、84 %であった。継続できなかった理由は、骨折や病気で入院、途中で介護保険へ移行などで、教室自体がつまらなく止めてしまった方はいなかった。本年度から茶話会の時に卒業生を招待し、経験談を語ってもらう、参加者同士でケガや病気の事を相談し合う等の新たな取り組みを行い、出席率とやる気向上が図られた。参加者から「歩けなかったのに、歩ける様になった」「正座ができる様になった」など、多くの改善と効果の声が聞かれるようになった。

エ、第2通所介護係（ききょうデイサービスセンター岡谷）

目標稼働率 70%	実績 65.2%
-----------	----------

『介護保険制度改正に対応し、施設運営の安定と利用者処遇の向上を両立させる。』

①安定した施設運営の為に、年間稼働率80%を目指す。

年間稼働率は、別紙の通り昨年と同じ 65.2%に留まり、目標には届かなかった。しかし、24年度制度改定に伴いサービス提供時間を一部延長し7時間～9時間サービスの単位数を提供できる体制を整えたことにより、利用者様の利便性向上と共に、事業収入は増加に転じた。

表1 デイ岡谷利用者稼働率一覧(平成24年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延利用者数	235	230	203	239	228	212	266	248	268	232	232	262	2,855
新規者数		1	1	1		3	4	2	1	1	2	2	18
中止者数	1	3			4		1	1	2	3		3	18
稼働率(%)	65.3	61.8	56.4	64.2	61.3	58.9	71.5	68.9	72.0	62.4	66.7	70.4	65.2

※利用中止者の内訳…施設入所8名、小規模多機能施設利用1名、不適合4名、入院名3名、死亡2名

なお、新規利用者様は18名と前年度に比べ増加したが、利用中止者も18名と多かったため、稼働率が伸びなかった原因となっている。利用中止の内訳は、施設入所が8名と多く、また、サービス回数をより多く利用したいという理由で小規模多機能施設や通常のデイサービスに切り替えた方が5名と多かった。

また利用者様を安定的に確保するため、定期的に各居宅介護支援事業所への働きかけを継続してきた。その結果、複数の居宅介護支援事業所から利用者様の紹介を頂き、平成24年4月時点では21名の利用者様に対し8事業所から利用されていたが、本年度末時点では、25名の利用者様に対し12事業所から利用されている。問題行動が多く他のデイサービスでは対応困難な利用者様も他の居宅介護支援事業所から依頼があるので、認知症対応デイとしての専門性が評価されたものと思われる。

②利用者処遇を向上させ、より良い通所介護サービスの提供を目指す。

利用者処遇の向上は日々取り組んできたが、処遇困難な利用者様が多かったため、その対応に追われてしまい、計画的な対応に課題を残した。

職員研修は、毎月の職員会議の中で定期的実施してきたが、それ以外にも次頁の表のとおり技術研鑽に努めた。利根沼田地区の小規模デイで組織している『ふれあい広場』主催の研修会では多くの職員が参加することができた。

平成24年度職員研修(職場外)

研修名	講師	主催	日時	参加者	備考
基本動作と バイオメカニクス	月夜野病院理学療法士 今井 崇	ふれあい広場	6月6日	高橋・小林 石原・中村 飯塚・清水 小澤	
第7回春の研修会 認知症の地域連携と 終末期ケア	東京大学大学院講師 会田薫子、他	ぐんま認知症 アカデミー	6月24日	高橋潤朗	※勤務 時間外
認知症キャラバン メイト養成研修	群馬大学医学部教授 山口晴保	群馬県	8月29日	高橋潤朗	
身体拘束廃止に 関する研究会	プレーケ本空施設長 湯川智美	群馬抑制廃止研究会	11月17日	中村初恵	
第7回秋の研究発表会	藤本クリニック(滋賀) 藤本直規 奥村典子	ぐんま認知症 アカデミー	12月2日	高橋潤朗	※勤務 時間外
医療知識講座 バイタルサインから 読みとれること他	まつかせ在宅医療 連携拠点室 小澤勝子	ふれあい広場	1月23日	高橋・小林 石原・中村 飯塚・清水 小澤	
各施設一押し のレク紹介と実践	各施設職員	ふれあい広場	2月20日	高橋・小林 石原・中村 飯塚・清水 小澤	

また、県の補助事業である「群馬県若年性認知症ケアモデル事業」の募集に応募したところ、県内の3施設の1つとして選考され、10月から毎週日曜日に実施している。10月から59歳の女性、11月から63歳の男性、また、今年5月より59歳の男性の受け入れをしている。それぞれ別のプログラムを立てて、若年性認知症の方たちが、どうすればいかに有意義に過ごせるかを目的に、家族の支援も含めて取り組んでいる。今までの主な取り組みとしては、59歳女性には料理やお菓子作りを一緒に取り組み、失敗させないケアで自尊心を高めると共に、調理の楽しさを感じていただく事、また、今後についての家族間の意見調整等に係わってきた。63歳男性には、陶芸教室に参加する事で、ご本人は趣味を復活させる事ができ、また、ご家族は、ご本人にできる力が残っていることを確認し「感動しました!」と感謝いただいている。

この事業は、年度をまたがって25年度9月まで1年間の県委託事業であり、その後の継続は不透明だが、この1年間は、職員にとって若年性認知症ケアについて学ぶ、良い体験実習の場になっている。

③地域住民との交流を密にし、地域の福祉拠点としての地位を確立する。

地元の夏祭りには職員が参加し、また、春の作品展には利用者様の作品を出展すると共に、見学にも行くことが出来た。また、『いけだ通信』では、当施設を再度紹介していただいた。しかし、認知症や介護に関する情報を地域の方に提供するイベントの開催については、実施には至らなかった。今年度は、更に交流を深められるよう努力したい。

オ、訪問介護係（ききょうヘルパーステーション）

目標訪問時間 13,000時間	実績 10,576時間 達成率 81.4%
-----------------	-----------------------

1) 訪問実績について：

「要介護」訪問実績は、訪問回数 8,380 回（昨年度 7,739 回 8%増）、同訪問時間 8,039 時間（昨年度 7,717 時間 4%増）となり、前年度に引き続きやや増加した。「介護予防」訪問実績は、訪問回数 2,578 回（昨年度 2,404 回 7%増）、同訪問時間 2,514 時間（昨年度 2,645 時間 5%減）だった。（下表参照）

平成24年度ききょうヘルパーステーション訪問実績

介護給付	24年度		23年度		増減		予防	24年度		23年度		増減	
	時間	回数	時間	回数	時間	回数		時間	回数	時間	回数	時間	回数
身体型	709	1,224	669	1,140	40	84	予防Ⅰ	656	665	535	512	121	153
身体・生活型	2,138	1,809	1,693	1,565	445	244	予防Ⅱ	1,189	1,240	1,471	1,308	-282	-68
生活援助型	5,192	5,347	5,355	5,034	-163	313	予防Ⅲ	669	673	639	584	30	89
総計	8,039	8,380	7,717	7,739	322	641	総計	2,514	2,578	2,645	2,404	-131	174

今年度は制度改正があり、生活援助の時間区分が変更となり短時間サービスに移行されたため、長時間滞在型(概ね 90 分)という提供は事実上できなくなった。回数が増えているのに活動時間が伸びていないのは、その結果と考えられる。しかし報酬の総額は前年度に比べ微増した。

型別では、相変わらず生活援助の占める割合が大きいが、身体生活型の割合も増加傾向にある。生活援助を受けながら在宅生活を継続してきた利用者様が、徐々に介護の手が必要になり、身体介護も合わせて提供するケースが増えてきているものと考えられる。

介護予防については、制度改正で各区分とも報酬単価が引き下げられたが、提供時間を短縮する方向で見直しを行ったため大きな影響はなかった。

介護予防の実人員 47 名のうち、週 1 回のみの利用者様が 21 名と半数近くを占めている。一人にかかる手間は変わらず、労力の割に実益が伴わないが、今後利用が増えることを予測し、これからも積極的に受け入れていく。

新規利用者様の受け入れ件数は 27 件(介護 11 件・予防 16 件)で昨年度同様の依頼があった。その一方で利用終了も 22 件あり、なかなか増収に結びつかないのが現状である。他事業所からの依頼状況については、当該年度実利用者数 93 名のうちの 66%となっており、当事業所のサービスの質について一定の評価を得られているということがいえる。

2) 事業目標について：

①事業所体制について

制度改正により、一番影響が大きく検討しなければならなかったことは、生活援助の時間区分が変わり、長時間提供ができなくなったことだった。しかし、各居宅介護支援事業所やご家族と連携をとりながら、早めに計画の見直しを検討していったことで、大きなトラブルにはならず対応できた。外勤の職員への影響が少なからず出たところだが、今までと同程度の仕事量が確保できたこと

で理解を得ている。

安定した事業運営のため、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターへは常に情報発信を行いコミュニケーションをとることを心がけてきた。今年度からは、各月の実績を送る際 FAX で済まらず、できるだけ事業所に出向き手渡しで届けるようにしている。

派遣依頼については、できるだけ柔軟に対応した。特に事業所変更の利用者様（他の訪問介護事業所に対応できない処遇困難ケース）の依頼が4名あり、現在のところ当事業所で継続利用できている。信頼を得られる事業所となるよう今後も積極的に受け入れていく。

②サービス内容の向上について

短時間サービスの提供に対応できるよう、職員間で情報交換を密に行いながら、訪問介護計画の見直しを行った。まだ、不十分な部分は多々あるが、見直しを行ったことで真のニーズがはっきりと出てきたり、職員間の意識統一にも繋がったのではないかと思われる。

在宅福祉課(ヘルパー)職員外部研修 受講記録(平成24年度)

研修名	主催	会場	日程	参加者
「ふるさと沼田の神々について」	利根沼田ホームヘルパー協議会	沼田市保健福祉センター	4月15日	芝宮・関・北沢
管理者研修会「介護保険改正の内容を徹底解説」	群馬県ホームヘルパー協議会	群馬県社会福祉総合センター	6月27日	佐藤
「考える介護」	利根沼田ホームヘルパー協議会	昭和村地域活性化センター	7月29日	芝宮・関・北沢・長谷川
訪問介護事業所研修会(集団指導)	群馬県健康福祉部	渋川市民会館 小ホール	12月4日	芝宮
ヘルパーサロン「ラフターヨガ」「タクティールケア」	利根沼田ホームヘルパー協議会	昭和村地域活性化センター	12月9日	芝宮・坂本・小林・北沢
難病患者等ホームヘルパー養成研修基礎課程Ⅰ	群馬県健康福祉部保健予防課	群馬県庁舎	1月31日	長谷川
料理講習会「レンジで簡単スピードクッキング」	利根沼田ホームヘルパー協議会	沼田保健福祉センター	2月24日	芝宮・関・狩野・高橋

ヘルパー研修(内部) 実施内容 ききょうの里内

内 容	実施日	内 容	実施日
利根沼田ヘルパー協議会研修報告	4月26日	認知症の原因疾患による特徴と予防について②	10月25日
職業倫理と法令遵守 業務開始にあたっての心得	5月28日	記録について『書く意味・書き方のルール』	11月28日
『知っておきたい薬の知識』 県薬剤師会より講師派遣	6月27日	地域の施設の概要について ノロウイルスについて	12月20日
認知症とパーソンセンタードケア①	7月26日	『ヘルパーに望むこと』 料理講習会報告会	1月29日
交通事故の実態を正しく理解する	8月28日	認知症の治療薬について③	2月28日
『見守り』って何?	9月27日	日本ヘルパー協会研修報告	3月26日

外部実習生受け入れ

- 群馬パース福祉専門学校 2名
- 群馬社会福祉専門学校 2名
- 群馬医療福祉短大 1名
- 高崎健康福祉大学 1名
- ほたか介護研修センター 16名
- 高崎福祉カレッジ 2名

外部研修については、利根沼田ヘルパー協議会の研修会を中心に参加した。県のヘルパー協議会へ賛助会員として入会したが、参加してもらうため通常業務を行う職員を確保できず、なかなか参加者を出すことができなかった。外部の研修会への参加は、志気を高めスキルアップに繋がるので今後は極力機会を設けていきたい。内部研修では、県の薬剤師会から講師を招いて「お薬講座」を行ったり、法人内の職員に講師を依頼し認知症の研修等を行った。事業所外講師の研修を受けることは刺激になり、また、知識や技術を持った法人職員の力を活用していくことも大事なことではないかと思う。

処遇困難ケースを抱えているため、今年度は家庭内のトラブルから二件の傷害事件が起こりその対応に追われた。両ケースともヘルパーの訪問日であり、ヘルパーが訪問したことで一命を取りとめることができた。当日訪問したヘルパーの心に傷が残ってしまったが、訪問介護という仕事が社会的に大きな役割を担っているということを感じた。

施設福祉課職員外部研修 受講記録(平成24年度)

	研修名	対象 (職種)	主催	会場	日程	参加者
1	生活相談員研究部会全体会議	生活相談員	群馬県社会福祉協議会	群馬社会福祉総合センター	5月17日	原澤禎 須藤一男
2	認知症介護実践者研修	施設職員	群馬県介護研修センター	群馬県介護研修センター	5月23日～25日 5月28日～30日 7月1日	小菅貴昭
3	社会福祉主事認定通信課程 面接授業		中央福祉学院	中央福祉学院	5月23日～27日	原澤菜美子
4	福祉施設等新任職員研修	施設職員	群馬県社会福祉協議会	群馬社会福祉総合センター	5月28日 6月1日、28日	青木かよ
5	福祉施設等新任職員研修	施設職員	群馬県社会福祉協議会	群馬社会福祉総合センター	6月14日、6月25日 7月5日	原澤優
6	認知症介護実践者リーダー研修	施設職員	群馬県介護研修センター	群馬県介護研修センター	6月12日～15日 7月3日～6日 7月9日～12日 8月10日 10月25日、26日	藤井元
7	介護技術講習会	施設職員	群馬県介護福祉士会	J A群馬厚生連	6月16日	関紗由美
8	認知症介護基礎研修	施設職員	群馬県介護研修センター	群馬県介護研修センター	6月21日、22日	関紗由美
9	看護研究部会職員研修会	施設職員	群馬県社会福祉協議会	群馬社会福祉総合センター	7月20日	北島厚子
10	H24年度 ユニット型特養情報交換会	施設職員	群馬県老人福祉施設協議会	群馬県市町村会館	7月13日	石井亜矢子
11	福祉施設等中堅職員研修Ⅱ	施設職員	群馬県社会福祉協議会	群馬社会福祉総合センター	8月8日、23日 8月27日	森山滋
12	口腔ケア実技講習会	施設職員	T & K株式会社	利根中央病院	8月10日	小野里健弘 小菅貴昭
13	認知症介護実践者研修	施設職員	群馬県介護研修センター	群馬県介護研修センター	8月22日～24日 8月27日～29日 10月7日	滝田幸恵
14	福祉施設指導の職員研修	施設職員	群馬県社会福祉協議会	群馬社会福祉総合センター	8月30日、31日	佐藤博
15	認知症介護実践者リーダー研修	施設職員	群馬県介護研修センター	群馬県介護研修センター	10月1日～5日 11月19日～22日 11月26日～29日 1月15日 2月14日、15日	佐藤博
16	認知症介護基礎研修	施設職員	群馬県介護研修センター	群馬県介護研修センター	11月1日、2日	関卓巳
17	介護支援専門員研修	介護支援専門員	群馬県社会福祉協議会	ベイシア文化ホール	10月24日	須藤一男
18	生活相談員研究部会	生活相談員	群馬県社会福祉協議会	ホテル福一	11月7日、8日	須藤一男
19	平成24年喀痰吸引指導者講習	看護職員	群馬県介護研修センター	群馬県介護研修センター	11月7日、16日	小野里健弘

施設福祉課職員外部研修 受講記録(平成24年度)

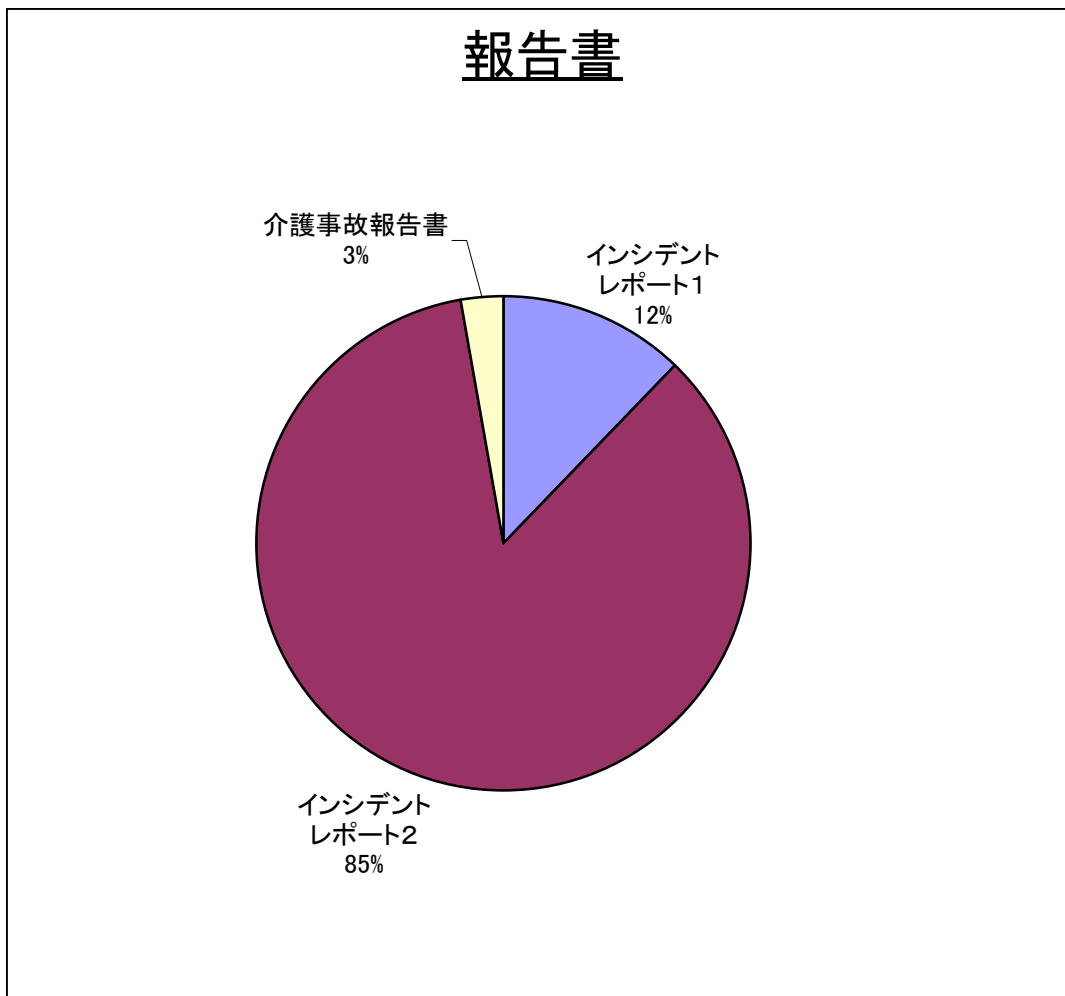
	研修名	対象 (職種)	主催	会場	日程	参加者
20	介護研究部会 全体研修	介護職員	群馬県老人福祉施設 協議会	群馬県市町村会館	11月15日	関紗由美
21	卒後研修 糖尿病の初期治療について	看護師	沼田利根医師会	沼田利根メディカル センター	11月29日	小野里健弘
22	ぐんま認知症アカデミー 第7回秋の研究発表会	施設職員	群馬会館ホール	ぐんま認知症 アカデミー	12月2日	石井亜矢子
23	ユニットリーダー研修	施設職員	日本ユニットケア 推進センター	東京ビッグサイト	12月19日～12月21 日	阿部由梨菜
24	福島県相双地域等における 介護職員の応援	介護職員	全国社会福祉協議会	花ぶさ苑	1月7日～2月5日	滝田幸恵
25	福島県相双地域等における 介護職員の応援	介護職員	全国社会福祉協議会	花ぶさ苑	2月 3日～3月5日	神林功
26	福島県相双地域等における 介護職員の応援	介護職員	全国社会福祉協議会	花ぶさ苑	3月3日～3月31日	石井菜々美
27	ユニットリーダー研修 実地研修	施設職員	日本ユニットケア 推進センター	ハーモニー広沢	1月 7日～11日	阿部由梨菜
28	生活相談員研究部会	生活相談員	群馬県社会福祉 協議会	群馬社会福祉総合 センター	2月12日	須藤一男
29	21世紀委員会全体研修	施設職員	群馬県社会福祉 協議会	群馬社会福祉総合 センター	2月18日	原澤禎
30	平成24年度認定調査員 現任研修	介護支援 専門員	群馬県社会福祉 協議会	前橋市民会館	3月4日	須藤一男
31	生活相談員研究部会 全体会議	生活相談員	群馬県社会福祉 協議会	群馬社会福祉総合 センター	3月15日	原澤禎
32	平成24年度新任職員 研修会	施設職員	群馬県社会福祉 協議会	群馬県市町村会館	3月26日	金井夏実 中村成美

平成24年度 施設福祉課行事一覧表

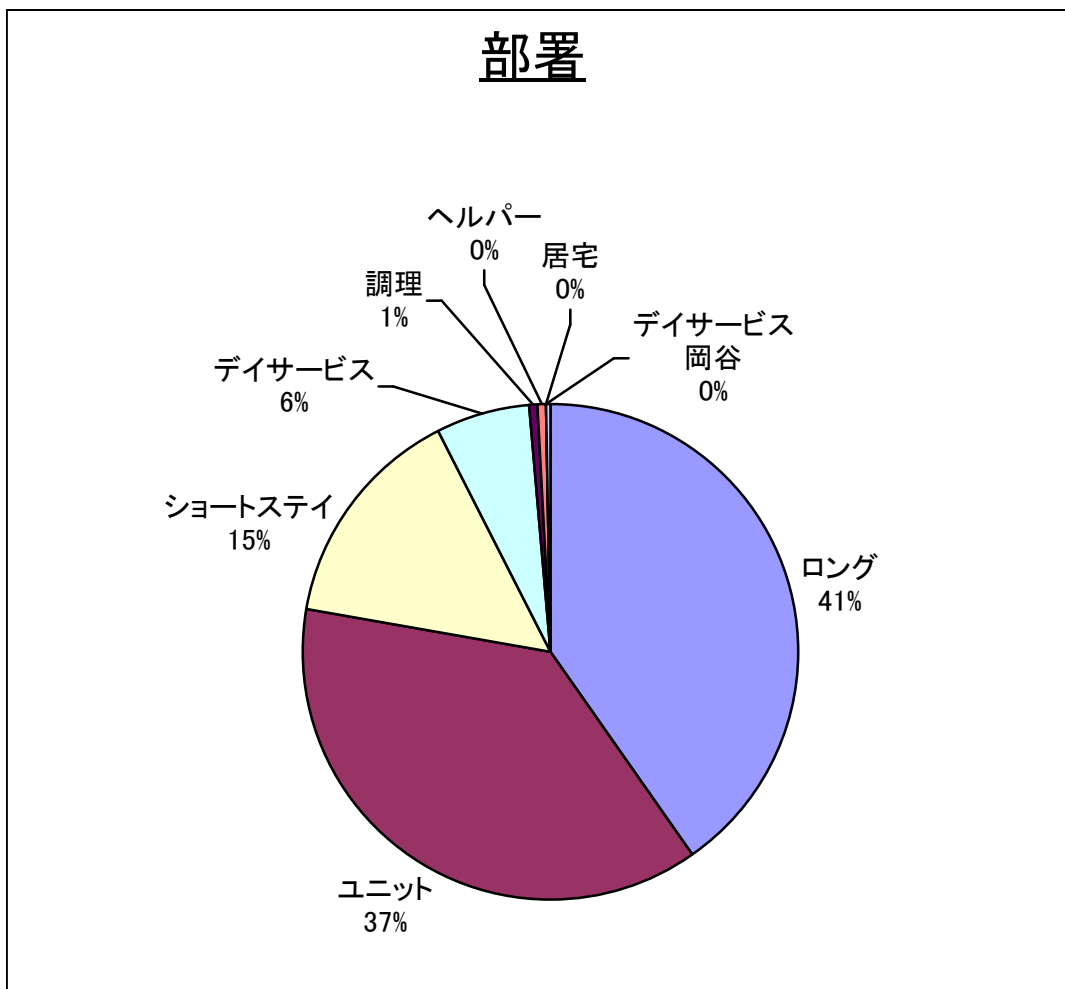
4月	(ロング) お花見 誕生会・開所記念	4月19日～21日 4月15日	10月	(ロング) 誕生会	10月21日
	(ユニット) お花見 (敷島公園、沼田公園) ふきのとうお焼き	4月19日、23日 4月27日、28日 4月12日		(ユニット) ドライブ 川場田園プラザ 餃子の皮のアップルパイ	10月12日、19日 10月22日 10月27日
5月	(ロング) 新緑狩り 母の日・誕生会	5月9日 5月20日	11月	(ロング) 茶話会・誕生会	11月18日
	(ユニット) 5月の節句 母の日 ベトナムへ買い物 まんてん星の湯 (大衆劇場)	5月5日 5月13日 5月13日 5月20日		(ユニット) 紅葉ドライブ スイートポテトパイ 栗あん入りどら焼き	11月8日、9日 11月24日 11月26日
6月	(ロング) 父の日・誕生会 外出行事	6月17日 6月21日	12月	(ロング) 誕生会 クリスマス誕生会	12月16日 12月23日
	(ユニット) 水ようかん 父の日 横塚保育園との交流 吉祥寺	6月13日 6月17日 6月22日 6月25日、27日		(ユニット) クリスマス 忘年会	12月21日 12月28日
7月	(ロング) 七夕祭り 誕生会	7月8日 7月22日	1月	(ロング) 新年会 誕生会 カラオケ大会	1月1日 1月20日 1月22日
	(ユニット) 流しそうめん かき氷パーティ 白沢祭り 手打ちうどん作り	7月7日 7月29日 7月22日 7月31日		(ユニット) 新年会 七草がゆ だるま市 初詣	1月1日 1月7日 1月16日 1月17日
8月	(ロング) 沼田まつり 誕生会 スイカ割り 外食	8月3日 8月19日 8月26日 8月28日	2月	(ロング) 節分 誕生会 人形劇	2月3日 2月17日 2月24日
	(ユニット) 沼田まつり 納涼祭 フルーツゼリー 月夜野火大会	8月3日～5日 8月8日 8月28日 8月16日		(ユニット) 節分 バレンタインクッキー 風船バレー大会	2月3日 2月14日 2月24日
9月	(ロング) 敬老食事会 ぶどう狩り	9月16日 9月18日、20日	3月	(ロング) ひな祭り	3月3日
	(ユニット) 敬老食事会 おはぎ ぶどう狩り	9月16日 9月19日 9月24日、27日		(ユニット) ひな祭り ベトナム買い物	3月3日 3月3日
	(合同) 東中運動会	9月15日	毎月	(ロング) 手作りおやつ (ユニット) 個人の誕生日会	月2回 入居者様毎

介護事故報告 統計（平成24年度）全体

報告書	
インシデントレポート1	66
インシデントレポート2	462
介護事故報告書	15
合計	543

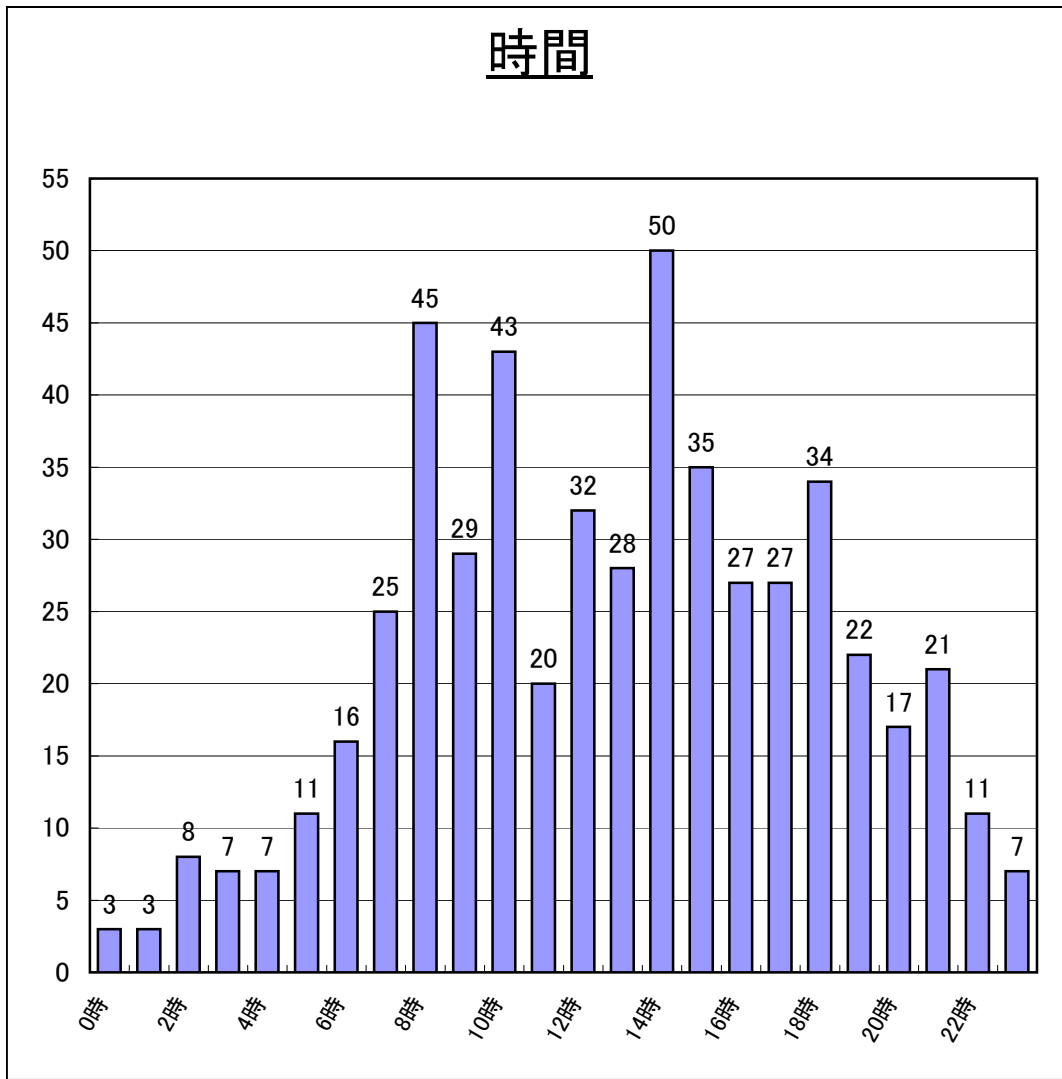


部署	
ロング	219
ユニット	203
ショートステイ	80
デイサービス	33
調理	4
ヘルパー	2
居宅	1
デイサービス岡谷	1
合計	543

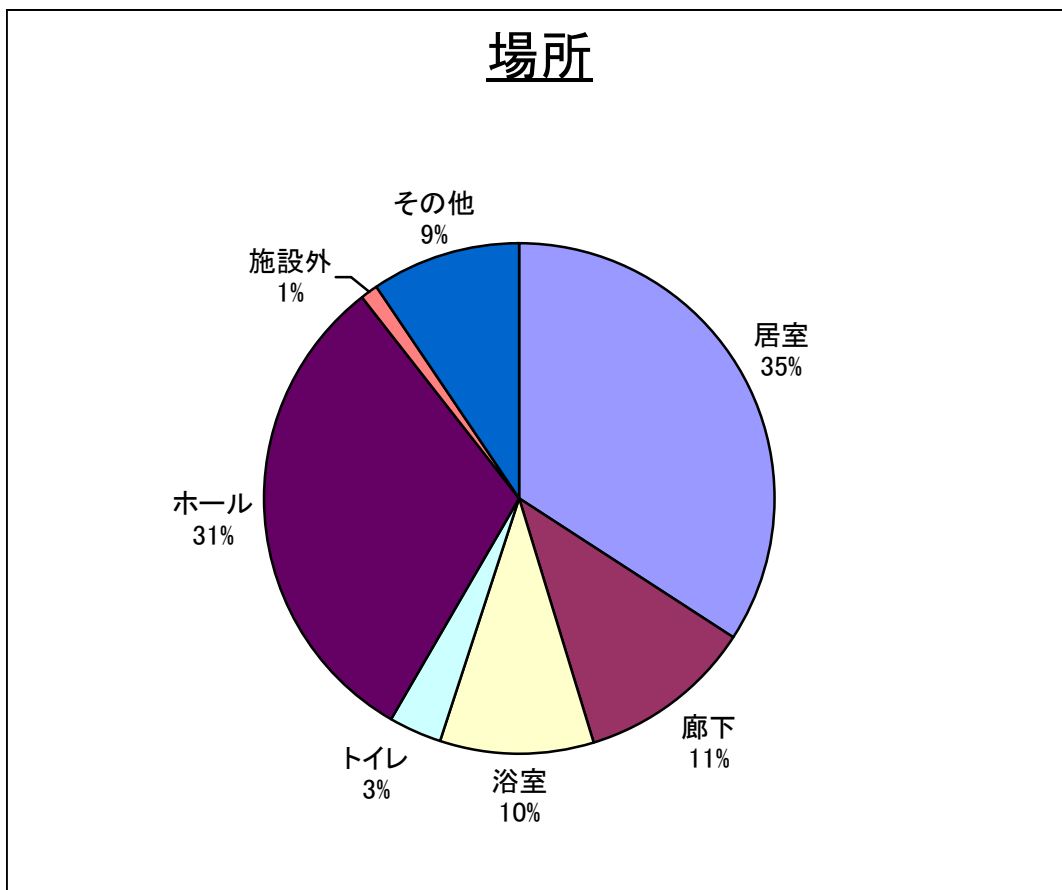


介護事故報告 統計（平成24年度）全体

時間	
0時	3
1時	3
2時	8
3時	7
4時	7
5時	11
6時	16
7時	25
8時	45
9時	29
10時	43
11時	20
12時	32
13時	28
14時	50
15時	35
16時	27
17時	27
18時	34
19時	22
20時	17
21時	21
22時	11
23時	7
合計	528

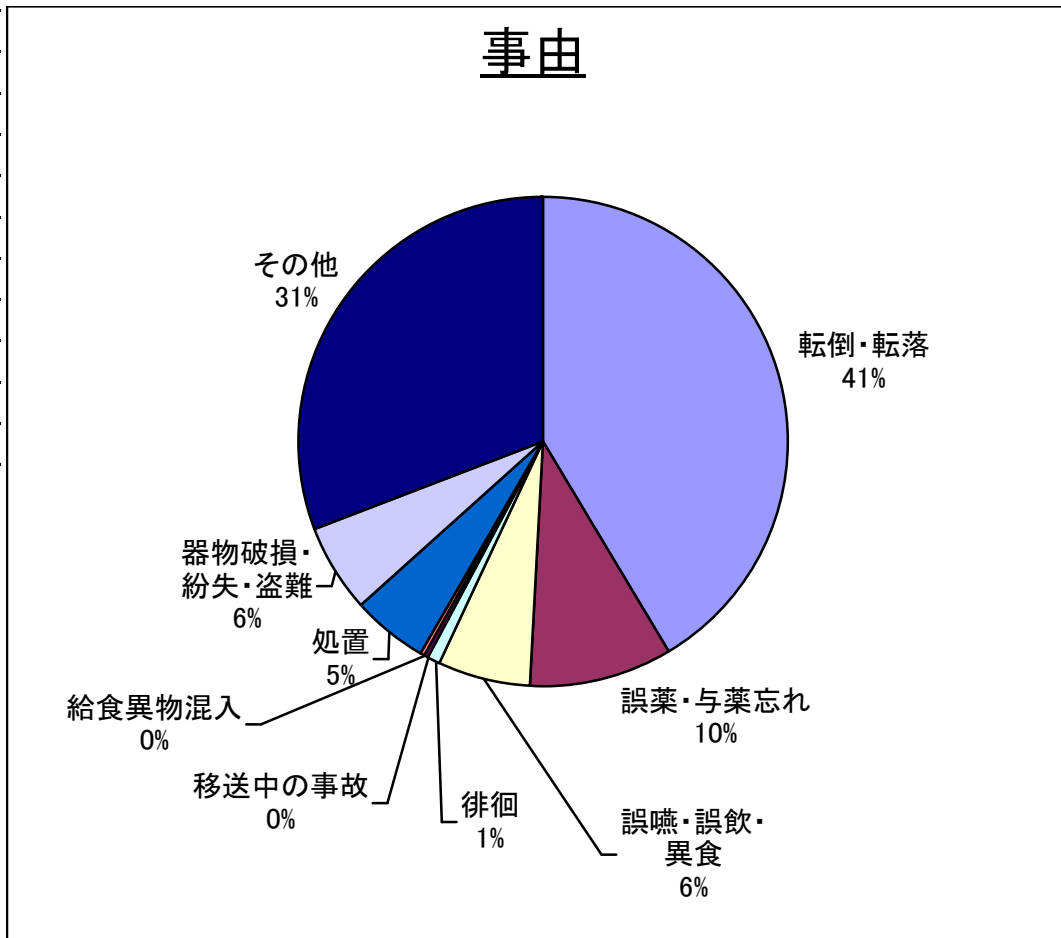


場所	
居室	186
廊下	60
浴室	53
トイレ	17
ホール	170
施設外	6
その他	51
合計	543

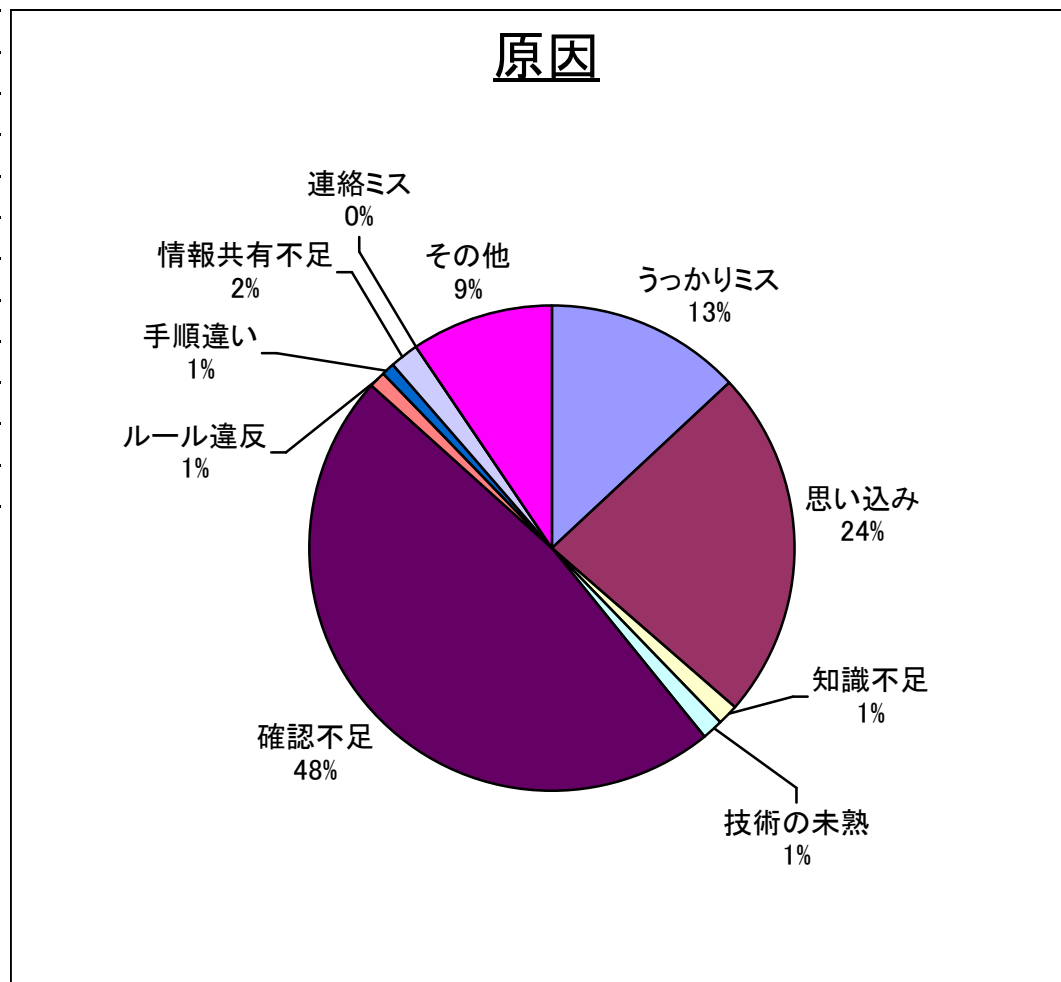


介護事故報告 統計（平成24年度）全体

事由	
転倒・転落	218
誤薬・与薬忘れ	50
誤嚥・誤飲・異食	31
徘徊	5
移送中の事故	1
給食異物混入	2
処置	26
器物破損・紛失・盗難	31
その他	162
合計	526

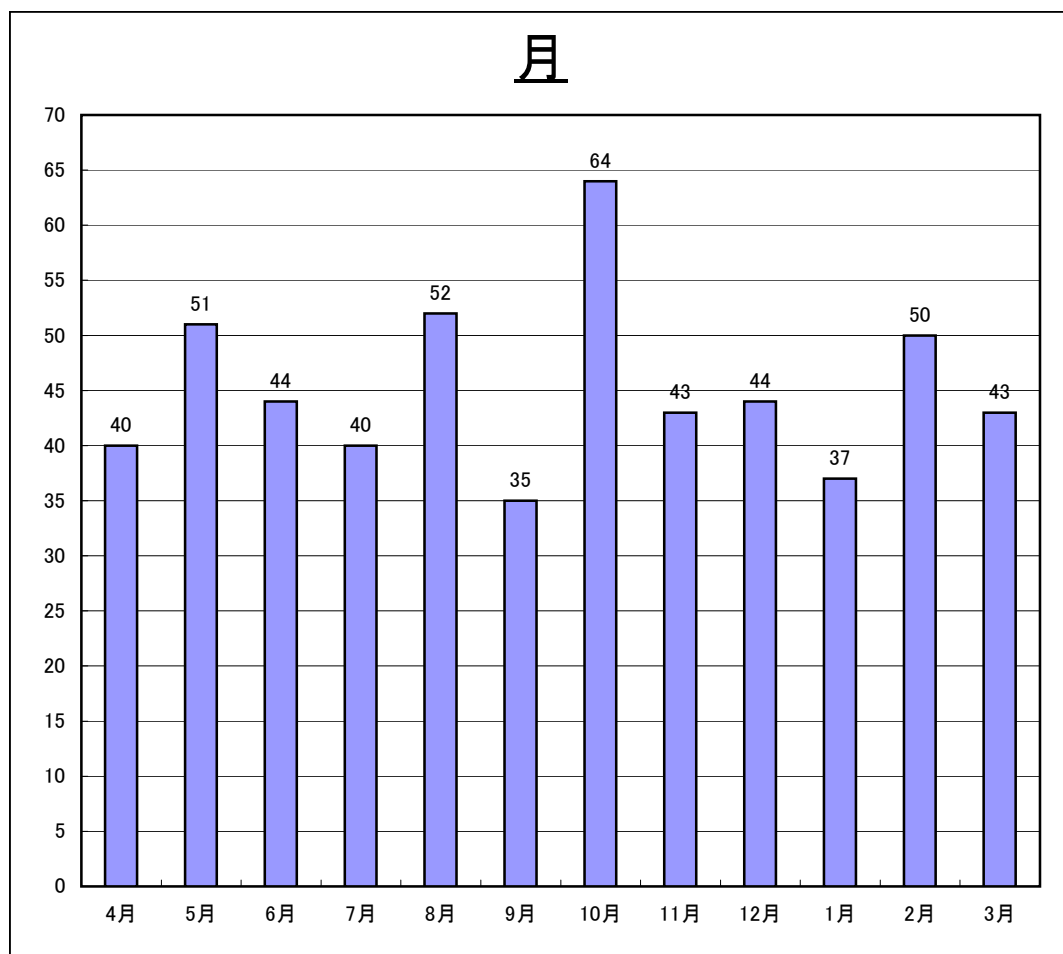


原因	
うっかりミス	94
思い込み	168
知識不足	9
技術の未熟	10
確認不足	341
ルール違反	8
手順違い	6
情報共有不足	15
連絡ミス	0
その他	67
合計	718



介護事故報告 統計（平成24年度）全体

月	
4月	40
5月	51
6月	44
7月	40
8月	52
9月	35
10月	64
11月	43
12月	44
1月	37
2月	50
3月	43
合計	543



平成24年度 ききょうデイサービスセンター利用状況

■ 要支援・要介護度別登録利用者数

介護度	23年度	24年度	増加率
支援1	344	368	6.5%
支援2	497	497	0.0%
要介護1	2,905	3,251	10.6%
要介護2	1,207	1,715	29.6%
要介護3	1,332	1,617	17.6%
要介護4	114	204	44.1%
要介護5	313	210	-49.0%
延べ人数	6,712	7,862	14.6%

※数字は利用者実績と若干異なる

■ 男女別・年齢別利用者数

年齢	男性	女性	合計
60～64	0	0	0
65～69	1	0	0
70～74	1	2	5
75～79	2	1	6
80～84	1	5	9
85～89	5	21	29
90～94	3	11	12
95～99	1	7	4
100～	0	2	2
合計	14	53	67

■ 介護度別実利用者数

要支援1	6
要支援2	6
要介護1	20
要介護2	16
要介護3	14
要介護4	2
要介護5	3
合計	67

※平成24年3月現在

■ 平均利用者数及び稼働率

年度	営業日数	延べ人数	平均利用者人数		稼働率	目標稼働率80%比
			月	日		
23年度	311日	7591人	632.6人	24.4人	69.7%	87.1%
24年度	310日	7843人	653.6人	25.3人	72.3%	90.4%
増減	-	3.3%増	21人増	0.9人増	2.6P増	

在宅福祉課(ききょうデイ)職員外部研修 受講記録(平成24年度)

研修名	対象(職種)	主催	会場	日程	参加者
H24年度群馬県老人福祉施設協議会 老人デイサービス研究部会職員研修	看護職員	群馬県老人福祉施設協議会	群馬県勤労福祉センター	5月2日	笛木 真人
介護技術講習会	介護職員	群馬県介護福祉士会	JA群馬厚生連	6月16日	大竹 里枝
H24年度第一回北毛ブロック職員研修会	相談員	群馬県老人福祉施設協議会	沼田市保健福祉センター	6月28日	宮野入 義之
H24年度第一回北毛ブロック職員研修会	相談員	群馬県老人福祉施設協議会	沼田市保健福祉センター	6月28日	平井 修
H24年度介護福祉養成実習指導者特別研修	相談員	社団法人日本介護福祉士会	群馬県社会福祉総合センター	6月23.24日 7月28日 8月4日	宮野入 義之
認知症介護実践者研修	相談員	群馬県老人福祉施設協議会	群馬県社会福祉総合センター	7月5,6,9,10,11日 8月19日	宮野入 義之
H24年度群馬県老人福祉施設協議会 老人デイサービス研究部会	介護職	群馬県老人福祉施設協議会	前橋商工会議所	9月21日	橋本 直樹
安全運転講習会開催	介護職	群馬県老人福祉施設協議会	群馬県自動車教習所	10月23日	萩原 唯磨
安全運転講習会開催	介護職	群馬県老人福祉施設協議会	群馬県自動車教習所	10月23日	前野 良雄
H24年度群馬県老人福祉施設協議会 老人デイサービス研究部会職員研修	相談員	群馬県老人福祉施設協議会	群馬県勤労福祉センター	H25 1月25日	宮野入 義之
介護予防「運動機能向上」研修会	看護師	群馬県理学療法士会	渋川総合病院	2月10日	星野 ますみ
H24年度群馬県老人福祉施設協議会 老人デイサービス研究部会職員研修	介護職	群馬県老人福祉施設協議会	渋川中央公民館	2月21日	橋本 直樹
H24年度群馬県老人福祉施設協議会 老人デイサービス研究部会職員研修	相談員	群馬県老人福祉施設協議会	群馬県勤労福祉センター	3月4日	宮野入 義之

平成24年度 決算報告書

財産目録

平成25年3月31日現在

(単位:千円)

資産・負債の内訳		金額
1. 資産の分		
001 流動資産		
01 現金預金	小口現金・群馬銀行 普通預金等	116,639
02 有価証券		
03 未収金	介護報酬・利用料等	71,768
04 未収補助金		
05 貯蔵品		
06 立替金		
07 前払金	社会福祉施設総合保険・火災保険料	1,523
08 他会計区分貸付金		
09 仮払金		
10 その他の流動資産		
流動資産計		189,930
002 固定資産		
01 基本財産		
01 土地	沼田市横塚町字高山957番地2 他9筆	76,283
02 建物	沼田市横塚町字高山957番地1 他1棟	476,884
03 基本財産特定預金		
基本財産計		553,167
02 その他の固定資産		
01 土地		
02 建物		
03 構築物	外構工事等 固定資産台帳のとおり	11,518
04 機械及び装置	機械類 固定資産台帳のとおり	10,824
05 車輛運搬具	車輛類 固定資産台帳のとおり	6,878
06 器具及び備品	器具類 固定資産台帳のとおり	7,154
07 建設仮勘定		
08 権利	電話加入権	425
09 投資有価証券		
10 他会計区分長期貸付金		
11 移行時特別積立金		
12 移行時減価償却特別積立預金		
13 建設積立預金	群馬銀行 1354675及び定期預金へ積立	129,022
14 退職共済預け金	群馬県社協に退職共済として預け分	4,376
15 その他の固定資産	車輛リサイクル預託金	126
その他の固定資産計		170,323
固定資産計		723,490
資産合計		913,420
2. 負債の部		
011 流動負債		
01 短期運営資金借入金		
02 未払金	業者支払分 3月分他	15,187
03 施設整備等未払金		
04 預り金	社会保険料・源泉所得税・住民税等	5,928
05 前受金		
06 他会計区分借入金		
07 仮受金		
08 賞与引当金		
09 その他の流動負債		
流動負債計		21,115
012 固定負債		
01 設備資金借入金	独立行政法人福祉医療機構 設備資金借入金	94,400
02 長期運営資金借入金		
03 他会計区分長期借入金		
04 長期預り金		
05 退職給与引当金	退職給与引当金	4,376
06 徴収不能引当金		
07 その他の固定負債		
固定負債計		98,776
負債合計		119,891
差引純資産		793,529

貸借対照表

平成25年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部				負債及び純資産の部			
科目名	前年度末	当年度末	増減	科目名	前年度末	当年度末	増減
流動資産	216,306	189,930	△ 26,376	流動資産	59,073	21,115	△ 37,958
				固定負債	107,249	98,776	△ 8,473
				負債の部合計	166,322	119,891	△ 46,431
				基本金	200,000	200,000	0
固定資産	720,556	723,490	2,934	国庫補助金等特別積立金	238,879	229,095	△ 9,784
				その他の積立金	104,022	129,022	25,000
				次期繰越活動収支差額	227,639	235,412	7,773
				純財産の部合計	770,540	793,529	22,989
資産の部合計	936,862	913,420	△ 23,442	負債及び純資産の部合計	936,862	913,420	△ 23,442

収支計算書

(自)平成24年4月1日 (至)平成25年3月31日

(単位:千円)

勘定科目				勘定科目						
	予算	決算	差異		予算	決算	差異			
経常活動による収支	収入	介護老人福祉施設介護料収入	248,767	250,100	△ 1,333	収入	長期運営資金借入金収入	0	0	0
		居宅介護料収入	147,269	148,488	△ 1,219		投資有価証券売却収入	0	0	0
		措置費収入	0	0	0		設備資金借入金元金償還補助金収入	0	0	0
		居宅介護支援介護料収入	13,228	13,050	178		設備資金借入金元金償還寄付金収入	0	0	0
		利用者等利用料収入	37,566	37,285	281		長期運営資金借入金元金償還寄付金収入	0	0	0
		その他の事業収入	10,002	9,077	925		積立預金取崩収入	0	0	0
		寄付金収入	0	0	0		他会計区分繰入金収入	0	0	0
		借入金利息補助金収入	1,493	1,493	0		他会計区分長期借入金収入	0	0	0
		受取利息配当金収入	36	35	1		他会計区分長期貸付金回収金収入	0	0	0
		事業外収入	2,115	2,140	△ 25		会計区分外繰入金収入	0	0	0
		雑収入	1,025	1,009	16		その他の収入	288	238	50
		経常収入計(1)	461,501	462,677	△ 1,176		財務収入計(7)	288	238	50
		支出	支出	人件費支出	326,474		323,310	3,164	支出	設備資金借入金元金償還金支出
経費	81,065			78,763	2,302	長期運営資金借入金元金償還金支出	0	0		0
(直接介護費)	59,407			58,254	1,153	投資有価証券取得支出	0	0		0
(一般管理費)	21,658			20,509	1,149	積立預金支出	25,000	25,000		0
利用者負担軽減額	1,378			1,269	109	他会計区分繰入金支出	0	0		0
徴収不能額	31			30	1	他会計区分長期貸付金支出	0	0		0
借入金利息支出	1,786			1,786	0	他会計区分長期借入金償還金支出	0	0		0
事業外支出	2,175			1,999	176	会計区分外繰入金支出	0	0		0
雑支出	0			0	0	その他の支出	642	640		2
経常支出計(2)	412,909			407,157	5,752	財務支出計(8)	34,442	34,440		2
経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	48,592	55,520	△ 6,928	財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 34,154	△ 34,202	48			
施設整備等による収支	収入	設備資金借入金収入	0	0	0	支出	予備費(10)	0	0	0
		設備整備等補助金収入	3,000	3,000	0		当期資金収支差額合計	4,702	11,583	△ 6,881
		施設整備等寄付金収入	0	0	0		(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			
		固定資産売却収入	0	0	0		前期末支払資金残高(12)		157,232	△ 157,232
		施設整備等収入計(4)	3,000	3,000	0		当期末支払資金残高(11)+(12)	4,702	168,815	△ 164,113
支出	支出	固定資産取得支出	12,736	12,735	1					
		固定資産除却・廃棄支出	0	0	0					
		施設整備等支出計(5)	12,736	12,735	1					
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 9,736	△ 9,735	△ 1							

事業活動計算書

(自)平成24年4月1日

(至)平成25年3月31日

(単位:千円)

勘定科目		前年度決算	本年度決算	増減	勘定科目		前年度決算	本年度決算	増減			
事業活動収支の部	収入				特別収支の部	施設整備等補助金収入	15,723	3,000	△ 12,723			
	介護老人福祉施設介護料収入	247,573	250,100	2,527		施設整備等寄附金収入	0	0	0			
	居宅介護料収入	145,818	148,488	2,670		固定資産受贈額	0	0	0			
	措置費収入	0	0	0		固定資産売却益	0	0	0			
	居宅介護支援介護料収入	13,622	13,050	△ 572		国庫補助金等特別積立金取崩額	0	525	525			
	利用者等利用料収入	38,610	37,285	△ 1,325		他会計区分繰入金収入	0	0	0			
	その他の事業収入	16,958	9,077	△ 7,881		会計区分外繰入金収入	0	0	0			
	その他の収入	0	0	0		その他の特別収入	0	0	0			
	国庫補助金等特別積立金取崩額	14,037	12,259	△ 1,778		特別収入計(8)	15,723	3,525	△ 12,198			
	(介護報酬査定減)	0	0	0		支出	基本金組入額	0	0	0		
事業活動収入計(1)	476,618	470,259	△ 6,359	国庫補助金等特別積立金繰入額	15,723		3,000	△ 12,723				
事業活動外収支の部	支出	人件費支出	316,804	323,072	6,268		固定資産除売却損	82	701	619		
		経費	83,621	78,763	△ 4,858		他会計区分繰入金支出	0	0	0		
		(直接介護費)	61,648	58,254	△ 3,394		会計区分外繰入金支出	0	0	0		
		(一般管理費)	21,973	20,509	△ 1,464		その他の特別損失	0	0	0		
		利用者負担軽減額	1,975	1,269	△ 706		特別支出計(9)	15,805	3,701	△ 12,104		
		減価償却費	32,646	34,436	1,790		特別収支差額(10)=(8)-(9)	△ 82	△ 176	△ 94		
		徴収不能額	30	30	0		当期繰越活動収支差額(11)=(7)+(10)	44,570	32,774	△ 11,796		
		引当金繰入	611	631	20		前期繰越活動収支差額(12)	185,756	227,638	41,882		
		事業活動支出計(2)	435,687	438,201	2,514	当期末繰越活動収支差額(13)=(11)+(12)	230,326	260,412	30,086			
		事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	40,931	32,058	△ 8,873	繰越活動収支差額の部	基本金取崩額(14)	0	0	0		
事業活動外収支の部	収入	借入金利息補助金収入	1,612	1,493	△ 119		基本金組入額(15)	0	0	0		
		受取利息配当金収入	35	35	0		その他の積立金取崩額(16)	39,312	0	△ 39,312		
		有価証券売却益	0	0	0		その他の積立金繰入額(17)	42,000	25,000	△ 17,000		
		寄付金収入	0	0	0							
		その他の事業活動外収入	1,912	2,140	228							
		雑収入	4,191	1,067	△ 3,124							
		事業活動外収入計(4)	7,750	4,735	△ 3,015							
		事業活動外収支の部	支出	借入金利息	1,926		1,786	△ 140				
				有価証券売却損	0		0	0				
				資産評価損	0	0	0					
その他の事業活動外支出	1,791			1,999	208							
雑損失	312			58	△ 254							
事業活動外支出計(5)	4,029			3,843	△ 186							
事業活動外収支差額(6)=(4)-(5)	3,721			892	△ 2,829	次期繰越活動収支差額(18)=(13)+(14)-(15)+(16)-(17)	227,638	235,412	7,774			
経常収支差額(7)=(3)+(6)	44,652			32,950	△ 11,702							

社会福祉法人桔梗会役員紹介

理事

理事長 松井 文男
青木 清吉
佐藤 渡
諏訪 光生
角田 和子
宮下 桂一

評議員

青木 清吉 角田 和子
倉品 喜久枝 中澤 静代
倉品 延恵 樋口 あさ子
小林 澄雄 藤井 章二
小林 博 牧野 久子
近藤 惇子 松井 文男
佐藤 渡 宮下 桂一
諏訪 光生

監 高井 英二
戸田 トモ子

平成25年 7月 1日現在



監査結果報告書

平成25年 5月21日

群馬県知事 大澤 正明 様

社会福祉法人 桔梗会
理事長 松井 文男 様

社会福祉事業法第40条及び関係法令に基づき実施した平成25年度第1回監査結果について次のとおり報告します。

監事 高井 英二 
監事 戸田 トモ子 

監査日時	平成25年 5月21日 (火曜日) 10時00分～ 時 分	
監査場所	特別養護老人ホーム ききょうの里 会議室	
監査実施内容	<ul style="list-style-type: none">平成24年度 決算監査介護老人福祉施設 ききょうの里 (従来型) 経理区分介護老人福祉施設 ききょうの里 (ユニット型) 経理区分ききょうの里短期入所生活介護事業所経理区分ききょうの里デイサービスセンター経理区分ききょうヘルパーステーション経理区分ききょうの里居宅介護支援事業所経理区分ききょうデイサービスセンター岡谷経理区分沼田市在宅介護支援センターききょう経理区分 <ul style="list-style-type: none">平成24年度会計執行状況及び法人・施設運営状況監査結果は別紙1、2のとおり	
監査結果	意見	特になし
	その他の提案事項	